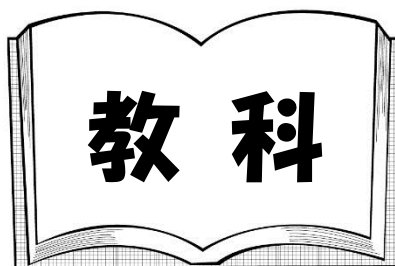


平成28年度 全国学力・学習状況調査
— 鈴鹿市の教科に関する調査結果概要 —



平成28年10月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果の概要	2
3	各教科の調査結果	1 2
	小学校 国語	1 2
	国語に関する質問紙調査の結果	1 4
	小学校 算数	1 6
	算数に関する質問紙調査の結果	1 8
	中学校 国語	2 0
	国語に関する質問紙調査の結果	2 2
	中学校 数学	2 4
	数学に関する質問紙調査の結果	2 6

調査結果の見方（学力調査）

「成果として認められる内容」正答率がおおむね 80%を上回るもの

「課題として考えられる内容」正答率がおおむね 70%を下回るもの

○・・・成果 ●・・・課題

「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される
内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～」

（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター）参照

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

小学校第6学年
中学校第3学年

(3) 調査内容

- ◇ 教科に関する調査（国語、算数・数学）

【国語、算数・数学】

主として「知識」に関する問題 (A問題)	主として「活用」に関する問題 (B問題)
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など
<調査時間> 各教科 小学校 20分 中学校 45分	<調査時間> 各教科 小学校 40分 中学校 45分

- ◇ 質問紙調査

児童生徒に対する質問紙調査	学校に対する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 <調査時間> 20分程度	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(4) 調査方式 悉皆調査

(5) 調査日時 平成28年4月19日(火)

(6) 鈴鹿市における調査を実施した学校・児童生徒数 (後日受検は含まない)

	実施校数	実施人数			
		国語A	国語B	算数(数学)A	算数(数学)B
小学校	30校	1,903人	1,900人	1,903人	1,901人
中学校	10校	1,797人	1,799人	1,800人	1,799人

2 調査結果の概要

(1) 鈴鹿市・三重県（公立）・全国（公立）の平均正答率

- 小学校・中学校ともに全ての教科において、国平均、県平均を下回っている。（表1）（表2）

表1 平成28年度 平均正答率（小6） (%)

小6	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
鈴鹿市	68.7	57.7	75.9	46.4
三重県 (公立)	71.7	58.1	78.3	47.1
全国 (公立)	72.9	57.8	77.6	47.2

表2 平成28年度 平均正答率（中3） (%)

中3	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
鈴鹿市	72.7	62.9	59.3	41.1
三重県 (公立)	74.4	64.3	62.2	43.2
全国 (公立)	75.6	66.5	62.2	44.1

(2) 平均正答率 経年比較

- H19 年度から H28 年度までの平均正答率の変動は、国や県の動きとほぼ似た動きとなっている。(図1～図8)
- どの教科も国の平均正答率に達することはできていない。しかし、国の平均正答率と鈴鹿市の平均正答率の差をみると、小学校の場合は国語 A 問題を除き、全てにおいて全国平均との差が縮まった。特に、国語 B においては、平成 27 年度の 0.4 ポイントから 0.1 ポイントの差となっている。(表 3) (図 9)
- 中学校においては、数学 B を除く 3 教科について、国の平均正答率との差が広がっている。(表 3) (図 10)

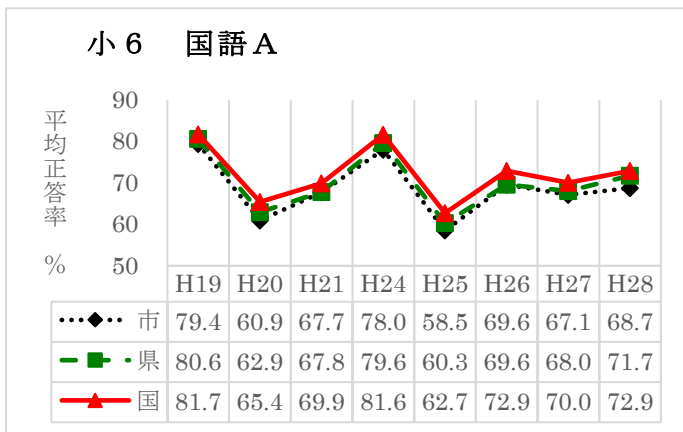


図1 平均正答率 国・県との経年比較 (小6 国語A)

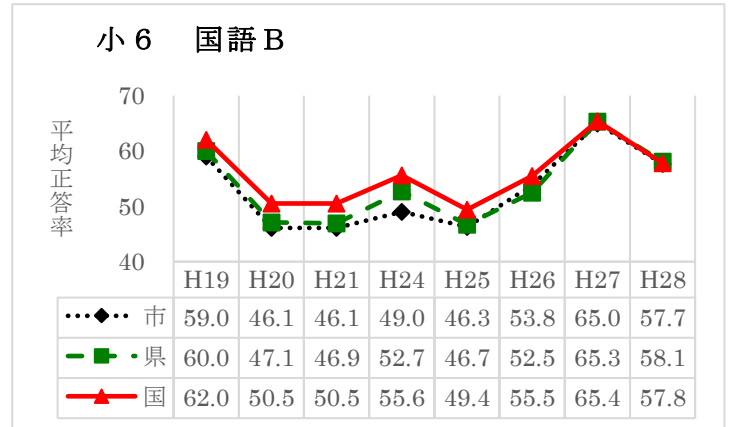


図2 平均正答率 国・県との経年比較 (小6 国語B)

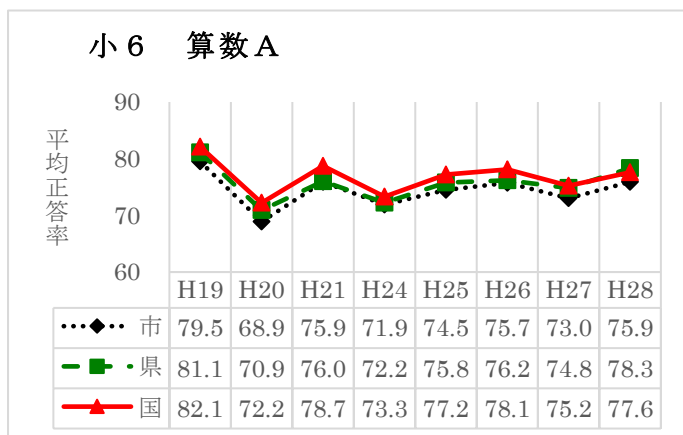


図3 平均正答率 国・県との経年比較 (小6 算数A)

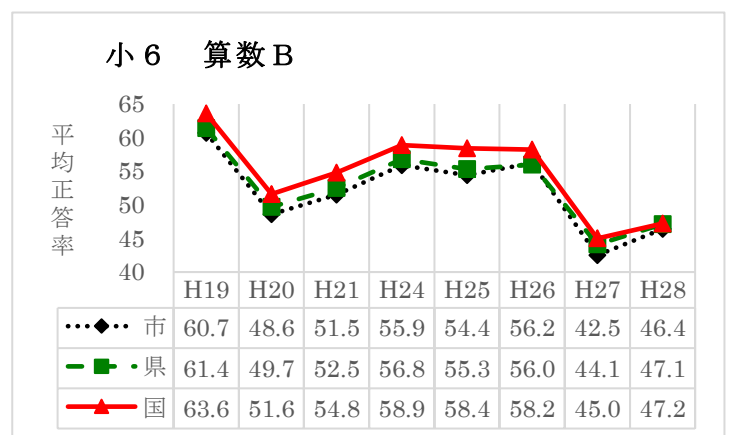


図4 平均正答率 国・県との経年比較 (小6 算数B)

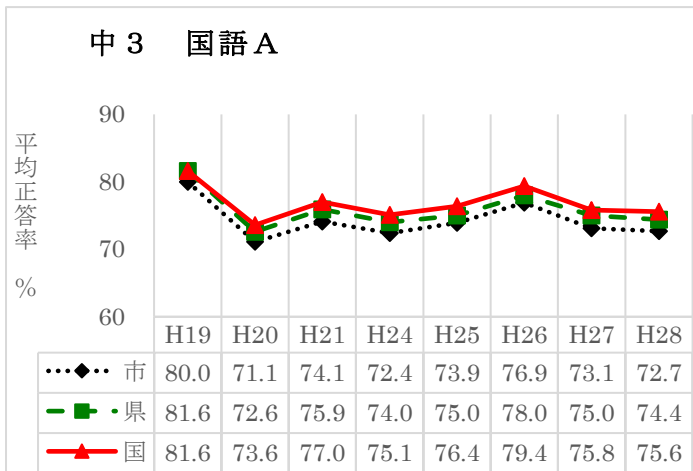


図5 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 国語A)

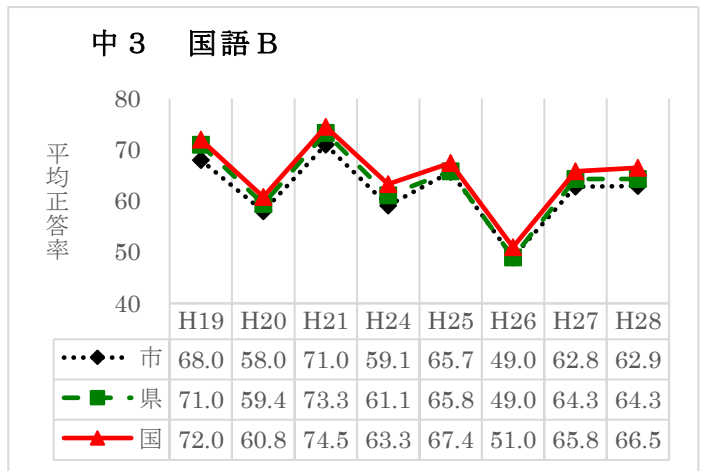


図6 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 国語B)

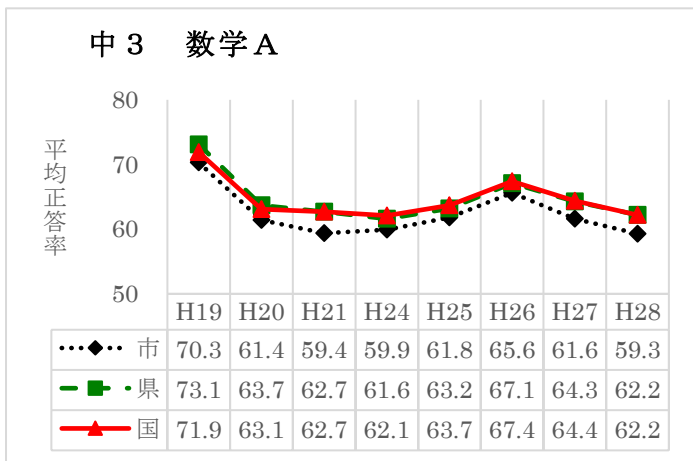


図7 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 数学A)

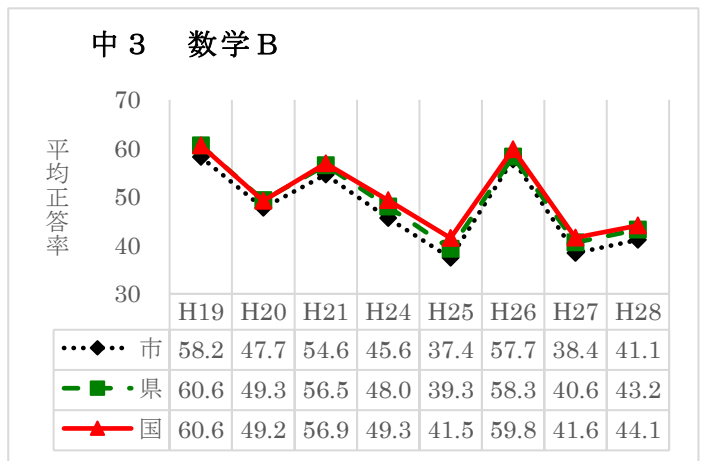


図8 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 数学B)

表3 平均正答率の全国との差の変化 (%)

	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			
	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	
小国	A	79.4	81.7	-2.3	60.9	65.4	-4.5	67.7	69.9	-2.2	78.0	81.6	-3.6	58.5	62.7	-4.2	69.6	72.9	-3.3	67.1	70.0	-2.9	68.7	72.9	-4.2
	B	59.0	62.0	-3.0	46.1	50.5	-4.4	46.1	50.5	-4.4	49.0	55.6	-6.6	46.3	49.4	-3.1	53.8	55.5	-1.7	65.0	65.4	-0.4	57.7	57.8	-0.1
小算	A	79.5	82.1	-2.6	68.9	72.2	-3.3	75.9	78.7	-2.8	71.9	73.3	-1.4	74.5	77.2	-2.7	75.7	78.1	-2.4	73.0	75.2	-2.2	75.9	77.6	-1.7
	B	60.7	63.6	-2.9	48.6	51.6	-3.0	51.5	54.8	-3.3	55.9	58.9	-3.0	54.4	58.4	-4.0	56.2	58.2	-2.0	42.5	45.0	-2.5	46.4	47.2	-0.8
中国	A	80.0	81.6	-1.6	71.1	73.6	-2.5	74.1	77.0	-2.9	72.4	75.1	-2.7	73.9	76.4	-2.5	76.9	79.4	-2.5	73.1	75.8	-2.7	72.7	75.6	-2.9
	B	68.0	72.0	-4.0	58.0	60.8	-2.8	71.0	74.5	-3.5	59.1	63.3	-4.2	65.7	67.4	-1.7	49.0	51.0	-2.0	62.8	65.8	-3.0	62.9	66.5	-3.6
中数	A	70.3	71.9	-1.6	61.4	63.1	-1.7	59.4	62.7	-3.3	59.9	62.1	-2.2	61.8	63.7	-1.9	65.6	67.4	-1.8	61.6	64.4	-2.8	59.3	62.2	-2.9
	B	58.2	60.6	-2.4	47.7	49.2	-1.5	54.6	56.9	-2.3	45.6	49.3	-3.7	37.4	41.5	-4.1	57.7	59.8	-2.1	38.4	41.6	-3.2	41.1	44.1	-3.0

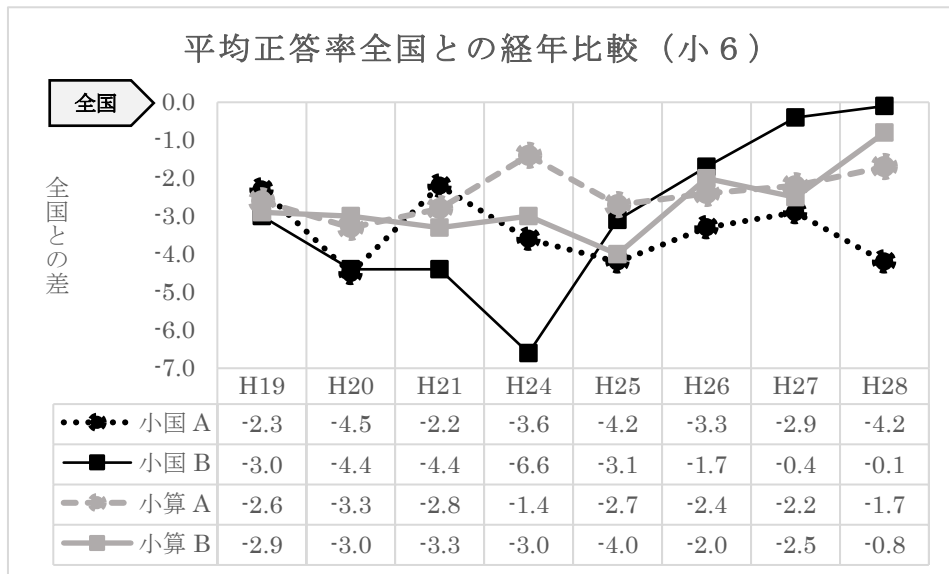


図9 平均正答率の全国との差の変化 (小学校)

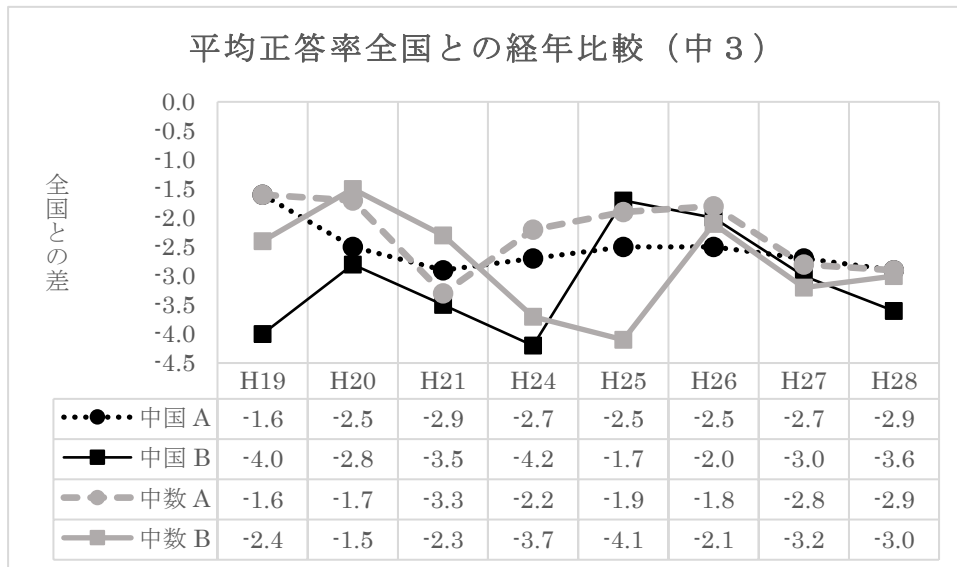


図10 平均正答率の全国との差の変化 (中学校)

(3) 鈴鹿市と全国（公立）の B 問題記述式問題における平均無解答率

- 国の平均無解答率と比較すると、小学校では、国語・算数ともに、H27 年度に比べて、差が縮まり、H26 年度並に戻った。(表 4) (図 11)
- 中学校の国語について、H26 年度をピークに差が広がり続けている。(表 4) (図 12)
- 中学校の数学について、H27 年度に比べて大きく改善され、全国平均との差を 0.1 ポイント差まで差を縮めた。(表 4) (図 12)
- 中学校の数学 B については、年度ごとの上昇、下降が激しい傾向が見られる。(図 12)

表 4 記述式問題における平均無解答率 全国との経年比較 (%)

	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成24年度 ※小学校9校 中学校7校			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
小国B 記述式問題	13.7	10.4	-3.3	21.8	16.4	-5.4	18.7	13.6	-5.1	19.6	12.8	-6.8	21.0	15.1	-5.9	13.6	12.8	-0.8	10.1	8.7	-1.4	9.2	8.4	-0.8
小算B 記述式問題	13.6	10.1	-3.5	11.4	8.6	-2.8	12.6	9.3	-3.3	10.3	7.4	-2.9	14.7	10.9	-3.8	8.1	7.1	-1.0	18.6	16.5	-2.1	15.0	14.3	-0.7
中国B 記述式問題	12.7	10.7	-2.0	24.5	20.2	-4.3	8.3	6.4	-1.9	14.5	11.9	-2.6	7.1	6.5	-0.6	9.1	9.3	0.2	7.7	5.9	-1.8	14.7	12.2	-2.5
中数B 記述式問題	25.6	23.0	-2.6	29.6	27.0	-2.6	27.1	22.8	-4.3	21.3	19.0	-2.3	33.0	29.5	-3.5	16.5	16.1	-0.4	26.9	23.2	-3.7	19.5	19.4	-0.1

※平成 24 年度の鈴鹿市の無解答率については、抽出校の小学校 9 校，中学校 7 校の平均

※無解答率については、数値が低いほどよい

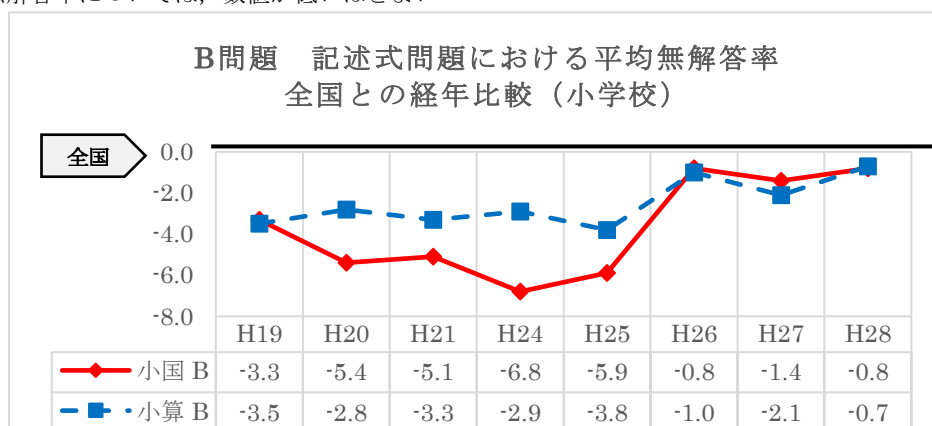


図 11 記述式問題平均無解答率の全国との経年比較 (小学校)

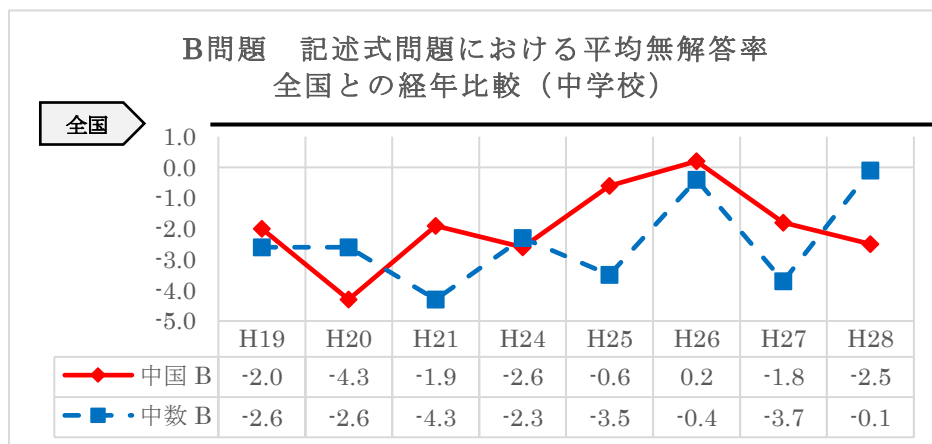


図 12 記述式問題平均無解答率の全国との経年比較 (中学校)

(4) 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数

- 小学校については、国語 B と算数 B について全国平均及び県平均を上回る学校数が増える傾向にある。(表 5)
- 小学校の国語 A については毎年増減を繰り返しており、H27 から H28 にかけては、減少した。(表 5)
- 中学校については、例年大きな増減は見られず、今年度についても大きな変動は見られない。(表 6)

表 5 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数の経年変化 (小学校) (校)

小学校	国語A								国語B								算数A								算数B							
	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28
全国平均を上回る学校数	7	7	11	4	7	5	7	4	12	6	6	1	8	9	14	16	8	9	10	14	9	8	8	10	7	8	11	7	8	9	8	14
県平均を上回る学校数	14	10	14	11	11	16	10	7	14	11	15	5	13	18	14	15	10	12	18	16	12	13	8	9	16	14	14	14	15	13	12	14

表 6 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数の経年変化 (中学校) (校)

中学校	国語A								国語B								数学A								数学B							
	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28
全国平均を上回る学校数	4	2	2	3	3	1	2	1	1	3	3	2	3	3	2	2	3	6	2	3	3	3	3	2	2	6	4	1	2	3	3	3
県平均を上回る学校数	4	3	4	3	4	4	2	3	3	4	4	2	7	5	4	3	2	5	2	4	3	4	3	2	2	6	4	3	3	5	5	3

(5) 正答数分布

＜小学校6年＞

- 国語A，算数Aについて正答数の多い児童が少なく，全国の山の傾向に比べて，左よりになつた。(図13～16)

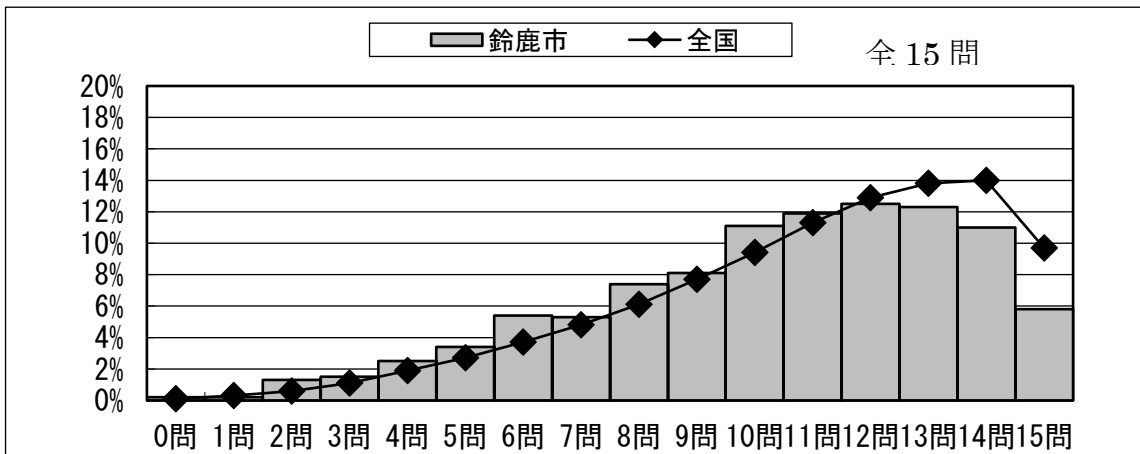


図13 H28年度 小学校国語A正答数分布

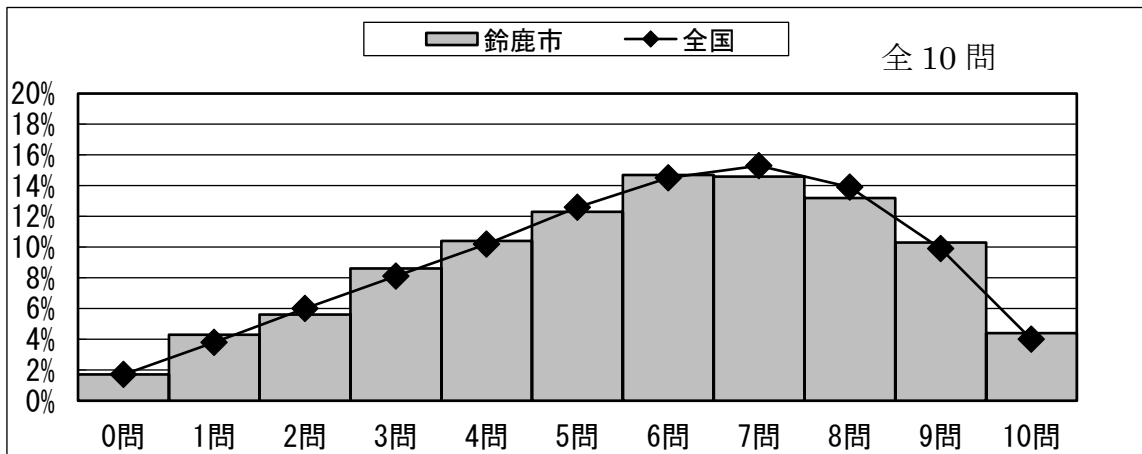


図14 H28年度 小学校国語B正答数分布

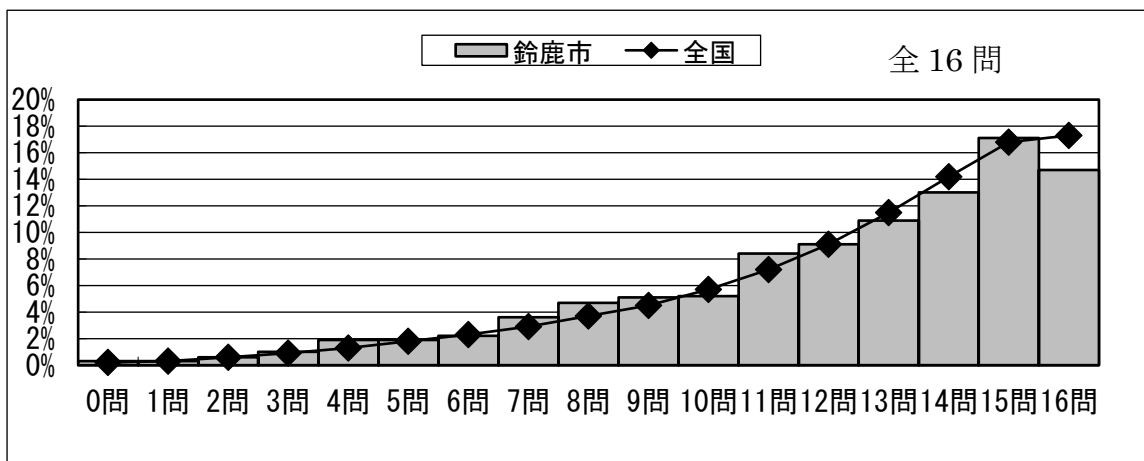


図15 H28年度 小学校算数A正答数分布

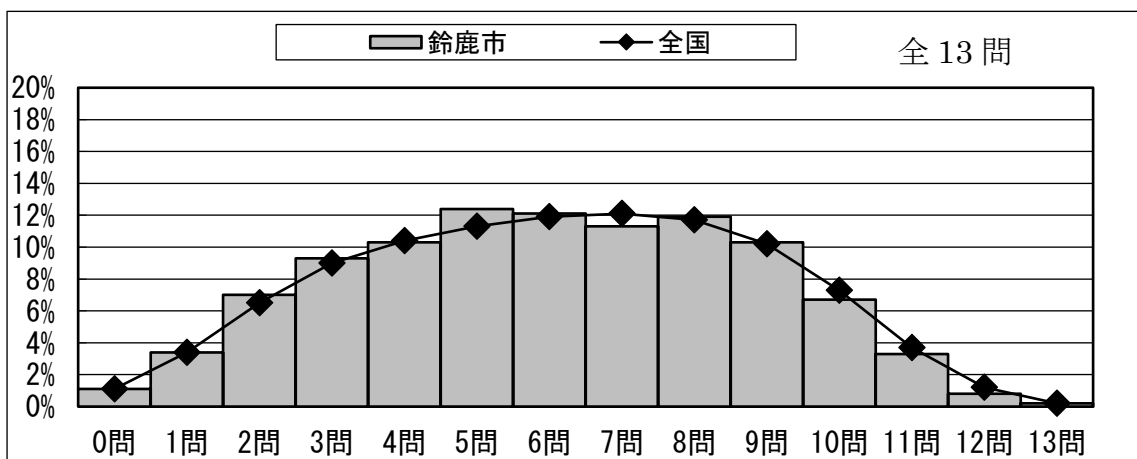


図16 H28年度 小学校算数B正答数分布

<中学校3年>

- 国語Aは、中央値※が1問全国より少ない。中央値が1問少ないということは、それだけ市全体の分布が国の分布に比べて、低く広がっていることになる。

数学Aについては、5問、18問、24問、25問の3箇所の頂点ができている。全国平均に比べて、低い正答数の分布が多いことになるため、学習の定着に課題がある生徒の割合が多いといえる。(図17～図20)

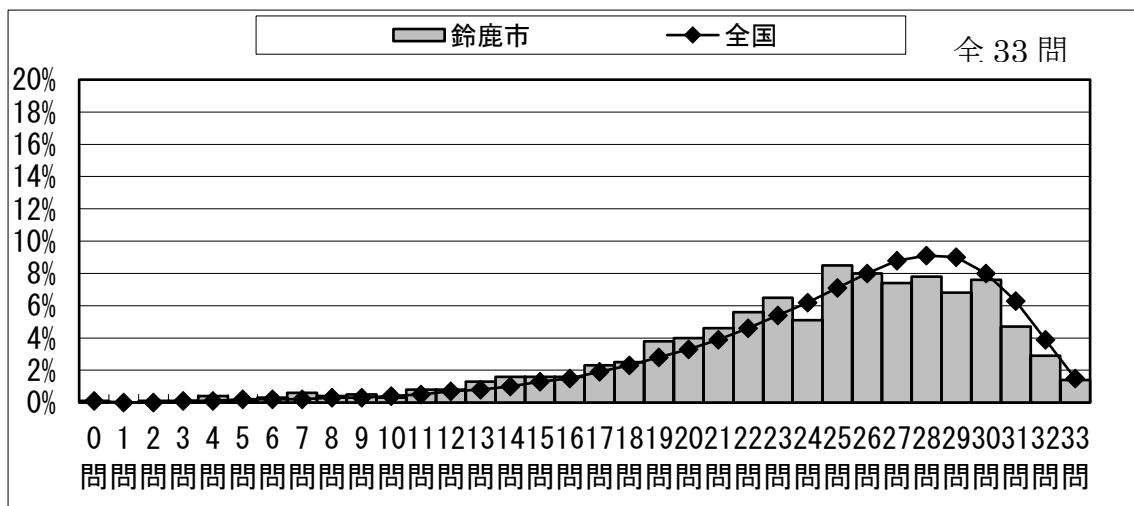


図17 H28年度 中学校国語A正答数分布

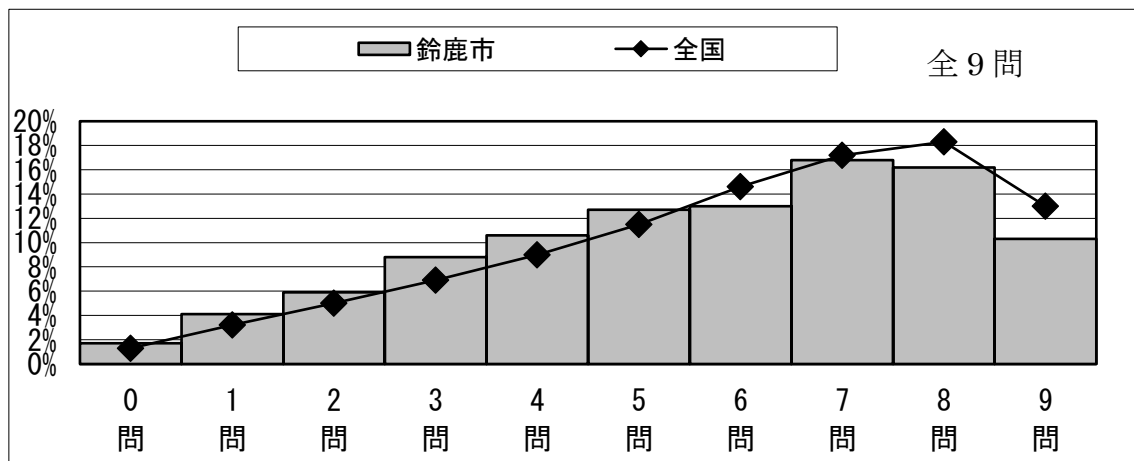


図18 H28年度 中学校国語B正答数分布

【中央値】

集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。
 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

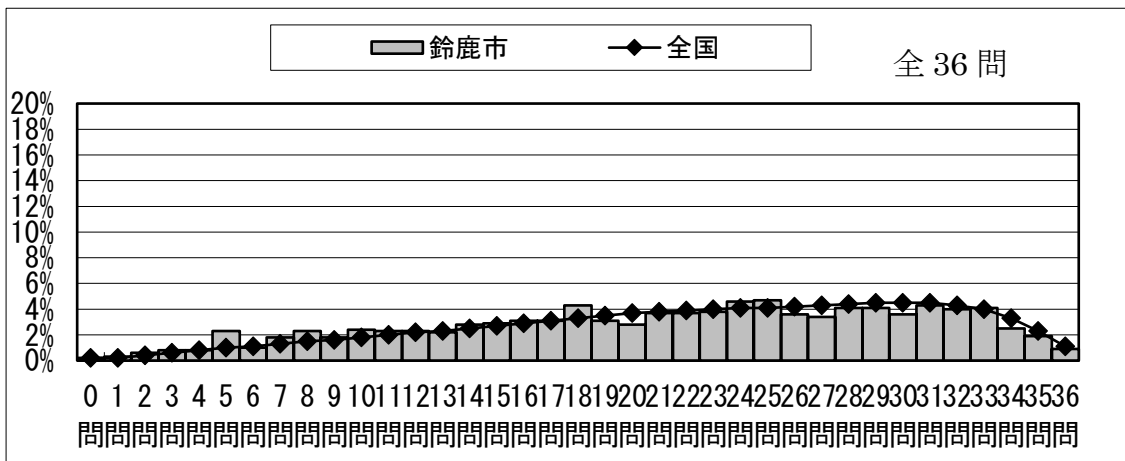


図 1 9 H28 年度 中学校数学A正答数分布

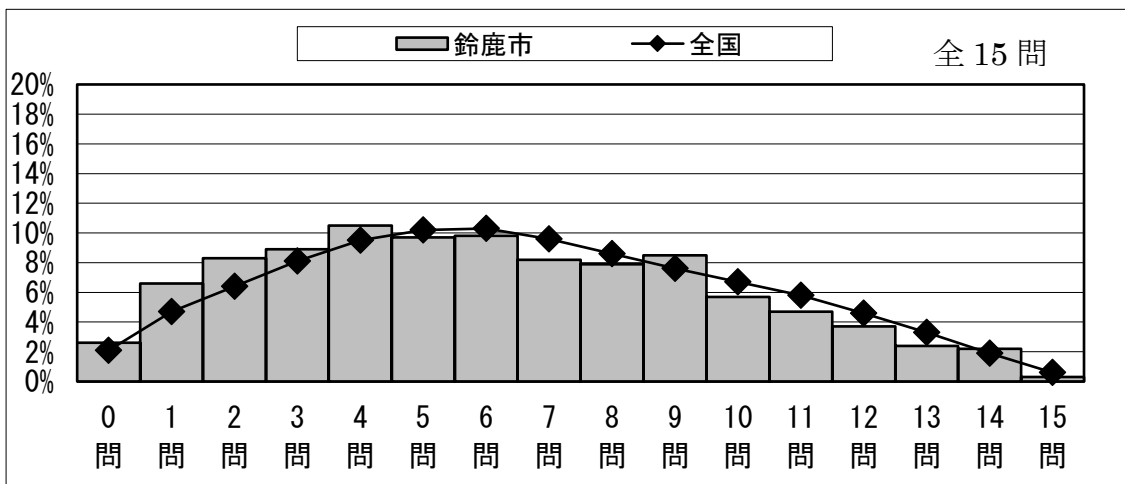


図 2 0 H28 年度 中学校数学B正答数分布

3 各教科の調査結果

小学校 国語

<A問題> (表7) (図21) 参照

- 領域別では「読むこと」について、H27年度に比べて全国平均との差を3.9ポイント縮め、大きな伸びが見られる。
- 「話すこと・聞くこと」については、H27年度に比べて全国平均との差が2.4ポイント広がっており、大きく落ち込んでいる。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、H27年度に比べて全国平均との差が2.5ポイント広がり、5.3ポイントまでになった。
- 問題形式別では「短答式」について、年々全国平均との差が広がっている。

表7 小学校国語A 分類・区分別集計結果

小学校国語A		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領 の領域等	全体	69.6	72.9	-3.3	67.1	70.0	-2.9	68.7	72.9	-4.2
	話すこと・聞くこと	72.0	72.4	-0.4	52.2	53.0	-0.8	76.0	79.2	-3.2
	書くこと	69.5	72.2	-2.7	85.3	86.0	-0.7	70.8	72.8	-2.0
	読むこと	66.0	68.5	-2.5	50.3	55.2	-4.9	77.5	78.5	-1.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	73.7	-3.7	74.4	77.2	-2.8	65.8	71.1	-5.3
問題形式	選択式	62.7	66.6	-3.9	63.9	66.4	-2.5	75.4	77.2	-1.8
	短答式	75.6	78.5	-2.9	70.2	73.7	-3.5	64.2	70.0	-5.8
	記述式									

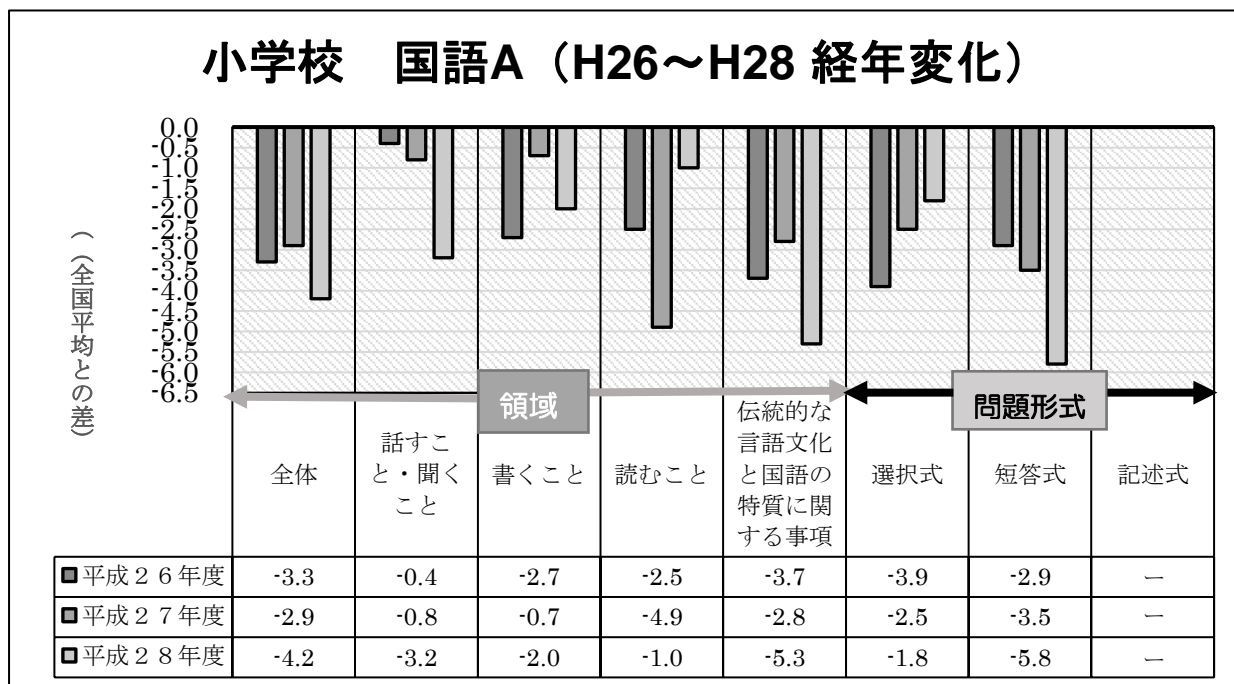


図21 平成26年度から平成28年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移 (小学校国語A)

＜B問題＞（表8）（図22）参照

- 領域別では「書くこと」について、年々全国平均との差を縮め、H28年度では全国平均を上回った。
- 「読むこと」について H27年度は全国平均に0.1ポイント差にまで迫ったが、H28年度は0.4ポイント差に広がった。
- 「選択式」について H27年度は全国平均との差が0.3ポイントだったが、H28年度は1.0ポイント差に広がった。
- 「記述式」について H27年度に比べて1.4ポイント伸び、全国平均を1.1ポイント上回った。

表8 小学校国語 分類・区分別集計結果

小学校国語B		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領の領域等	全体	53.8	55.5	-1.7	65.0	65.4	-0.4	57.7	57.8	-0.1
	話すこと・聞くこと	48.6	51.2	-2.6				51.0	51.1	-0.1
	書くこと	33.2	34.4	-1.2	60.5	61.1	-0.6	53.8	53.4	0.4
	読むこと	56.1	57.3	-1.2	68.0	68.1	-0.1	68.9	69.3	-0.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	69.8	-0.3						
問題形式	選択式	60.6	62.1	-1.5	68.3	68.6	-0.3	58.9	59.9	-1.0
	短答式	65.5	67.7	-2.2	79.9	80.8	-0.9			
	記述式	33.2	34.4	-1.2	55.1	55.4	-0.3	55.8	54.7	1.1

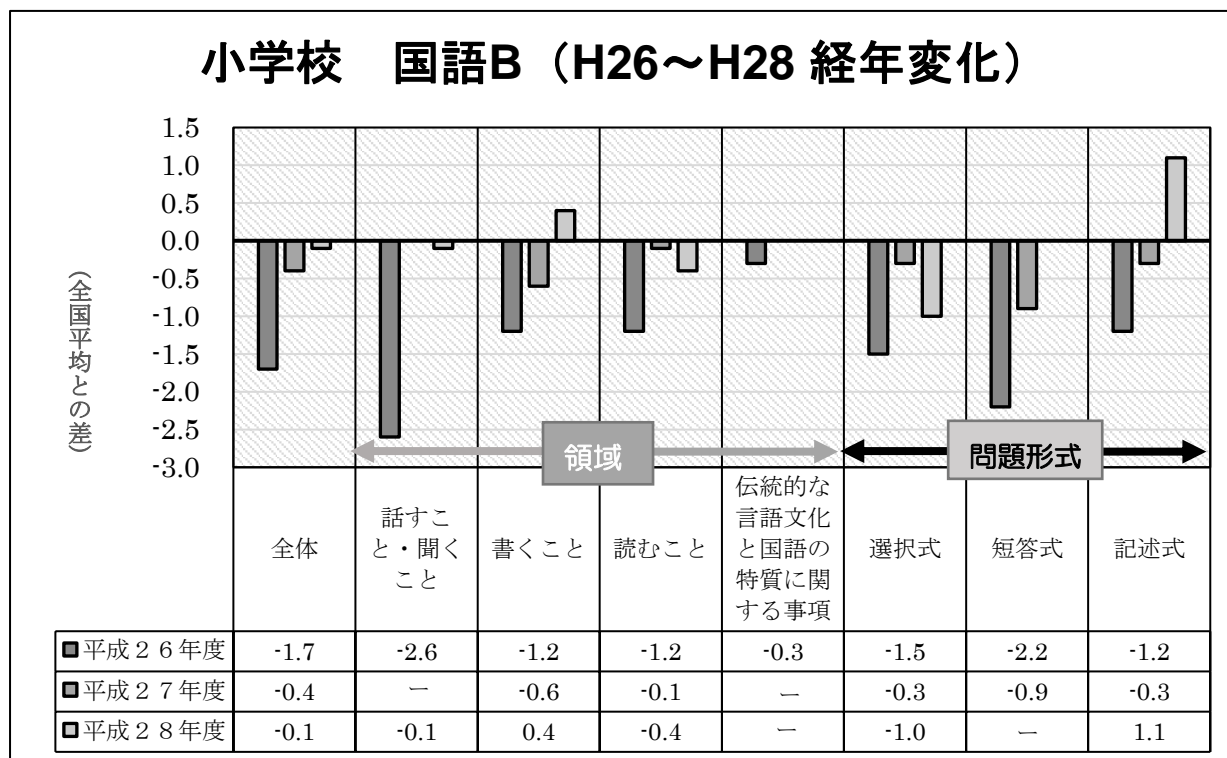


図22 平成26年度から平成28年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移（小学校国語B）

小学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<児童質問紙調査>

- 「国語の勉強は好き」と回答する児童の割合（表9）
- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること（表10）
- 意見を発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫すること（表10）

<学校質問紙調査>

- 「前年度に国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行った」と回答する学校の割合（表12）
- 「補充的な学習の指導を行った」と回答する学校の割合（表12）
- 「発展的な学習の指導を行った」と回答する学校の割合（表12）

児童質問紙

表9 児童の「国語の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
61	国語の勉強は好きですか	58.3	59.6	56.7	58.3	△
62	国語の勉強は大切だと思いますか	92.0	92.2	90.3	91.3	△
63	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.7	80.9	78.9	80.7	△
64	読書は好きですか	72.0	70.8	73.0	74.6	△
65	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.4	88.8	88.0	89.2	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表10 児童の「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
66	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	56.9	60.0	61.9	67.0	▲
67	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	58.8	58.3	59.8	62.3	△
68	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	70.5	71.6	71.8	74.0	△
69	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	77.0	74.6	76.4	78.1	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表11 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
70	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題について最後まで解答を書こうと努力しましたか	78.0	77.3	74.7	75.1	△
82	解答時間は十分でしたか（国語 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	84.5	80.7	81.8	85.2	△
83	解答時間は十分でしたか（国語 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	51.8	63.9	69.3	71.6	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 12 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
57	前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	10.0	16.6	16.7	42.7	▲
67	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	60.0	66.6	66.7	77.1	▲
68	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	43.3	33.3	46.7	49.8	△
69	前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	83.3	93.3	86.7	90.9	△
70	前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	93.3	93.3	93.3	92.8	○
71	前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	66.6	86.6	86.6	87.4	△
72	前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	96.7	100	100.0	98.0	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

小学校 算数

< A問題 > (表 13) (図 23) 参照

- 領域別では、「量と測定」「図形」について、年々全国平均との差を縮めている。特に「図形」については依然全国平均との差はあるものの、H27 に比べて全国平均との差を 1.6 ポイント縮めている。
- 「数量関係」について、H27 年度に比べて全国平均との差が 0.7 ポイント広がった。
- 問題形式別では、「選択式」について、年々全国平均との差を縮めている。

表 13 小学校算数 A 分類・区分別集計結果

小学校算数A		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	75.7	78.1	-2.4	73.0	75.2	-2.2	75.9	77.6	-1.7
学習指導要領 の領域等	数と計算	80.4	81.8	-1.4	78.3	80.1	-1.8	78.7	80.5	-1.8
	量と測定	71.8	74.8	-3.0	69.1	71.3	-2.2	75.0	77.0	-2.0
	図形	67.7	71.8	-4.1	60.9	64.5	-3.6	76.8	78.8	-2.0
	数量関係	78.7	81.3	-2.6	84.3	84.9	-0.6	67.2	68.5	-1.3
問題形式	選択式	68.0	70.7	-2.7	68.8	70.5	-1.7	74.5	75.8	-1.3
	短答式	82.5	84.8	-2.3	74.9	77.3	-2.4	76.5	78.5	-2.0
	記述式									

小学校 算数A (H26~H28 経年変化)

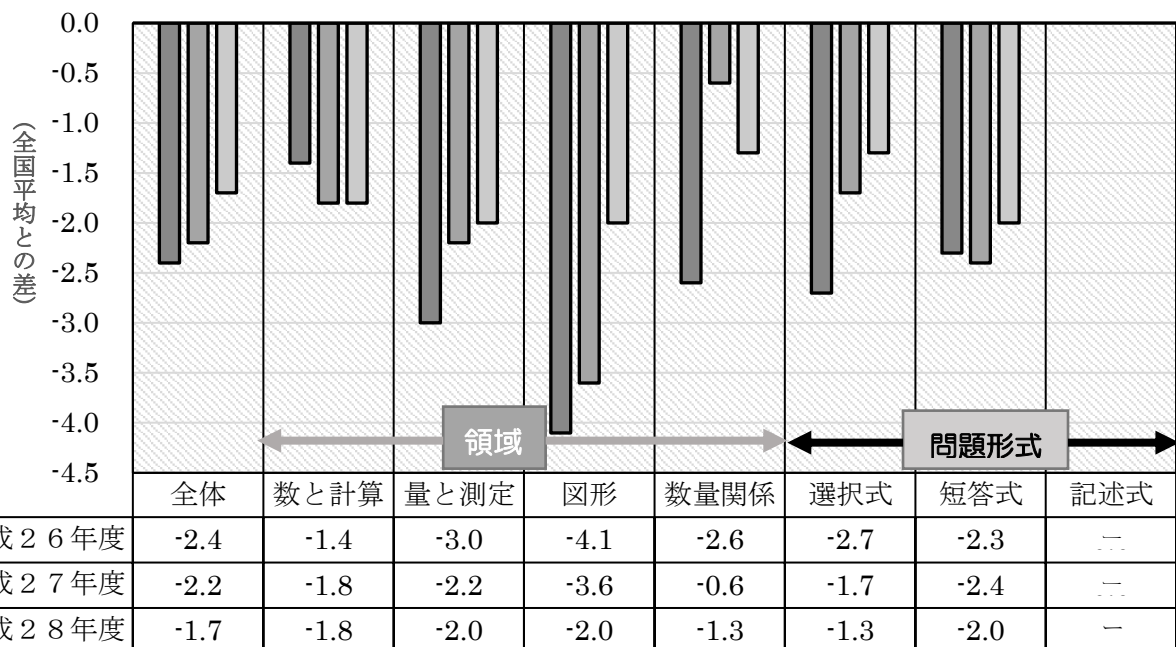


図 23 平成 26 年度から平成 28 年度にかけての領域別，問題形式別正答率推移（小学校算数 A）

＜B問題＞（表 14）（図 24）参照

- 全ての領域について、H27 に比べて全国平均との差を大幅に縮めている。特に「図形」については、H27 に比べて、1.6 ポイント縮めている。
- 全ての問題形式について、H27 に比べて 2.8 ポイント伸び、特に「選択式」については、全国平均も 0.5 ポイント上回った。
- 「記述式」について、昨年度よりも差を縮めたが、依然として全国平均を大きく下回っている。

表 14 小学校算数 B 分類・区別集計結果

小学校算数B		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	56.2	58.2	-2.0	42.5	45.0	-2.5	46.4	47.2	-0.8
学習指導要領 の領域等	数と計算	58.7	61.3	-2.6	39.7	42.4	-2.7	43.2	44.4	-1.2
	量と測定	55.4	56.5	-1.1	39.7	41.7	-2.0	42.9	43.7	-0.8
	図形	66.0	65.7	0.3	43.4	45.6	-2.2	35.7	36.3	-0.6
	数量関係	54.3	56.2	-1.9	40.9	43.0	-2.1	42.2	42.9	-0.7
問題形式	選択式	63.8	64.7	-0.9	68.3	70.6	-2.3	57.2	56.7	0.5
	短答式	61.3	62.2	-0.9	40.3	42.2	-1.9	65.3	66.4	-1.1
	記述式	46.1	49.7	-3.6	29.3	32.5	-3.2	24.3	26.2	-1.9

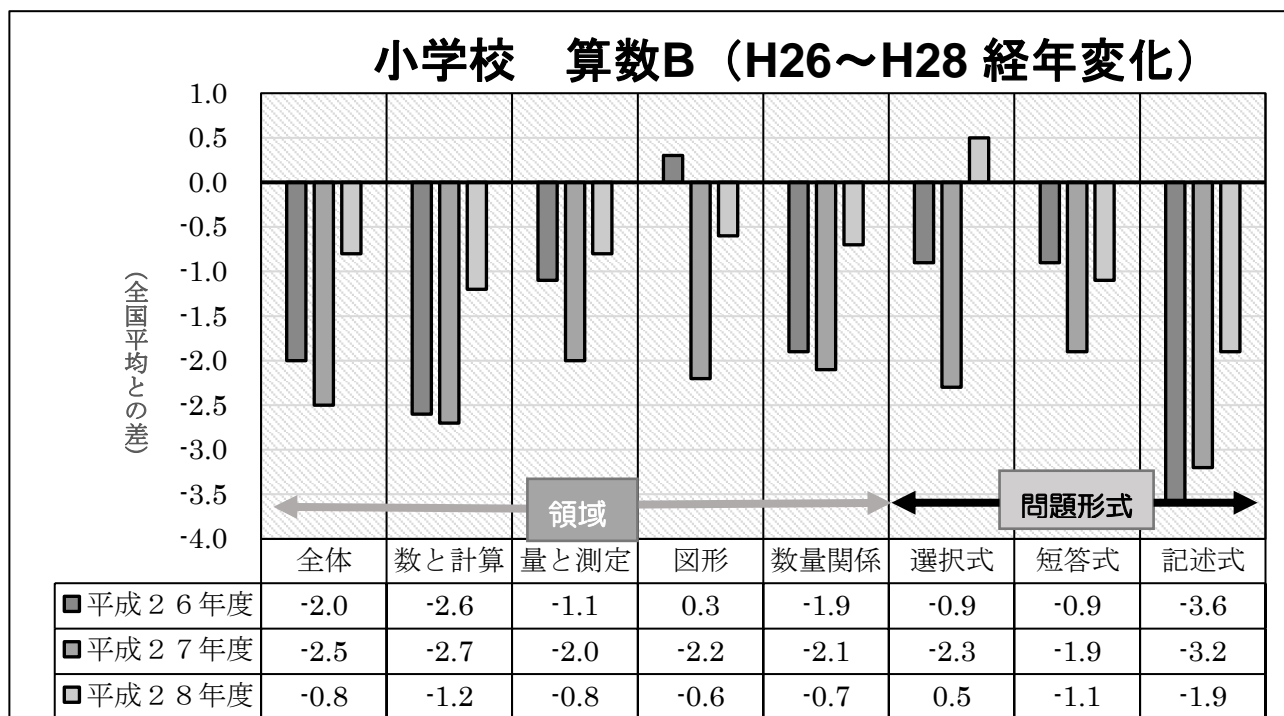


図 24 平成 26 年度から平成 28 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移（小学校算数 B）

小学校算数に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<児童質問紙調査>

- 「算数の勉強が好き」と回答した児童の割合（表 15）
- 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること（表 16）

<学校質問紙調査>

- 「前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行った」と回答した学校の割合（表 18）
- 「発展的な学習の指導を行った」と回答する学校の割合（表 18）
- 「実生活における事象との関連を図った授業を行った」と回答する学校の割合（表 18）

児童質問紙

表 15 児童の「算数に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
71	算数の勉強は好きですか	67.0	64.8	67.5	66.0	○
72	算数の勉強は大切だと思いますか	93.2	92.9	91.0	91.9	△
73	算数の授業の内容はよく分かりますか	80.7	81.5	80.8	80.2	○
74	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	78.6	78.2	78.0	75.8	○
77	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.8	90.2	89.1	89.9	△

表 16 児童の「算数の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
75	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	78.2	79.7	81.8	81.0	○
76	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	66.6	65.5	66.4	67.4	△

78	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	81.3	79.0	80.6	80.5	○
79	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	81.7	79.5	80.9	80.8	○
80	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	83.0	82.3	84.1	84.8	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 17 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
81	今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	80.5	73.5	72.6	72.0	○
84	解答時間は十分でしたか（算数 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	89.1	82.1	85.7	86.3	△
85	解答時間は十分でしたか（算数 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	74.5	59.3	54.5	57.3	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 18 「算数科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
58	前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	10.0	30.0	23.3	51.0	▲
73	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	83.3	86.7	90.0	92.4	△
74	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	36.7	60.0	43.3	65.0	▲
75	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	66.7	80.0	56.7	74.1	▲
76	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	96.7	90.0	100.0	97.7	○
77	前年度までに、教科担任制を実施していましたか	0	0	6.7	8.9	△
64	前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか （※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	6.7	23.4	13.4	45.3	▲
65	前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか （※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	6.6	16.6	6.6	36.5	▲
66	前年度に、ティームティーチングによる指導を行いましたか（※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	36.6	46.6	40.1	46.9	▲

中学校 国語

<A問題> (表 19) (図 25) 参照

- 領域別では、「書くこと」について全国平均との差が H27 年度から 2.0 ポイント大幅に縮まった。
- 「読むこと」について全国平均との差が H27 年度の 0.7 ポイント差から 3.0 ポイント差に広がった。
- 問題形式別では、「選択式」について年々全国平均との差が広がっている。
- 「短答式」については、H27 年度に比べて全国平均との差を若干縮めているものの、依然 3.0 ポイント以上の差がある。

表 19 中学校国語 A 分類・区分別集計結果

中学校国語A		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	76.9	79.4	-2.5	73.1	75.8	-2.7	72.7	75.6	-2.9
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	69.1	72.3	-3.2	77.1	79.7	-2.6	75.7	78.9	-3.2
	書くこと	80.9	83.4	-2.5	70.4	73.6	-3.2	72.5	73.7	-1.2
	読むこと	81.9	82.9	-1.0	85.4	86.1	-0.7	75.6	78.6	-3.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.9	78.7	-2.8	69.7	72.9	-3.2	70.7	73.9	-3.2
問題形式	選択式	81.3	83.2	-1.9	73.1	75.5	-2.4	70.7	73.5	-2.8
	短答式	69.6	73.1	-3.5	73.1	76.7	-3.6	77.4	80.5	-3.1
	記述式									

中学校 国語A (H26~H28 経年変化)

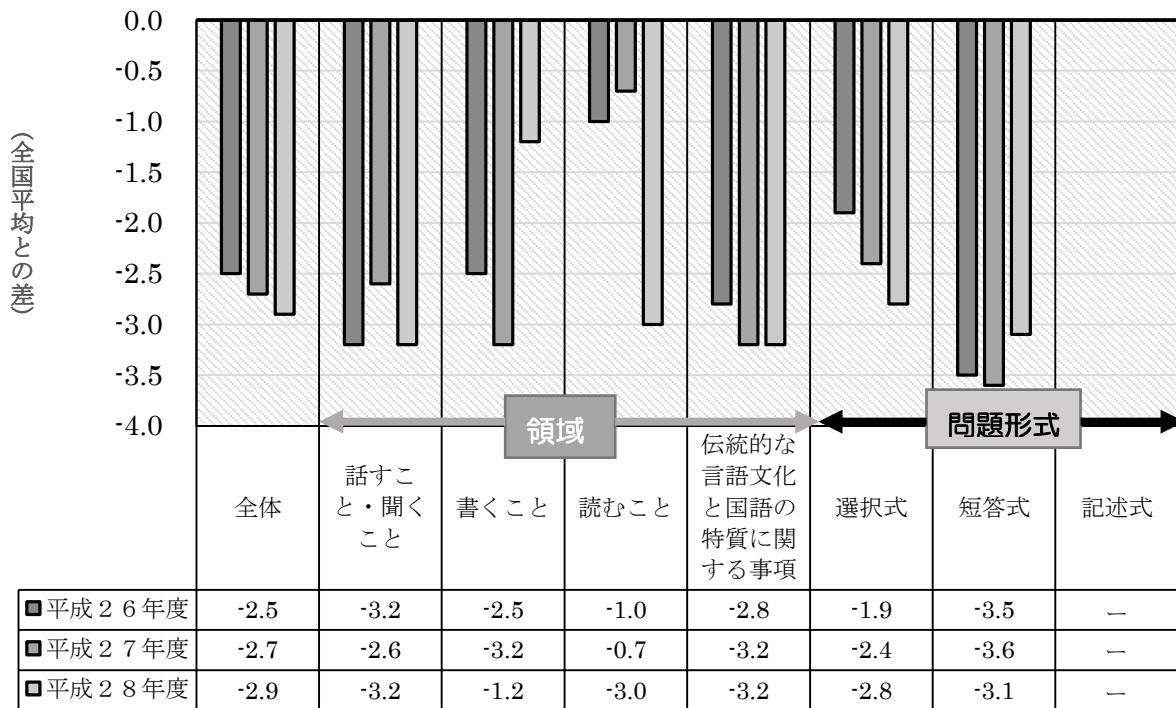


図 25 平成 26 年度から平成 28 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移 (中学校国語 A)

＜B問題＞（表 20）（図 26）参照

- 領域別では、「書くこと」について全国平均との差が年々広がっている。H27 年度に比べて 0.9 ポイント広がった。
- 「読むこと」についても全国平均との差が、今年度ここ 3 年間で一番開いた。
- 「短答式」について過去 2 年間は設問がなかったが、今年度は全国平均との差が 5.1 ポイントと大きくなっている。
- 問題形式別では、「記述式」について、H27 年度に比べて、2.8 ポイント広がっており、全国平均との差が増々大きくなっている。

表 20 中学校国語 B 分類・区分別集計結果

中学校国語B		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	49.0	51.0	-2.0	62.8	65.8	-3.0	62.9	66.5	-3.6
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと				68.3	72.2	-3.9			
	書くこと	38.0	41.0	-3.0	32.5	36.7	-4.2	53.2	58.3	-5.1
	読むこと	46.5	49.2	-2.7	60.0	62.6	-2.6	62.9	66.5	-3.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.9	56.8	-1.9						
問題形式	選択式	54.5	55.9	-1.4	77.9	79.0	-1.1	68.1	70.6	-2.5
	短答式							66.0	71.1	-5.1
	記述式	38.0	41.0	-3.0	32.5	34.8	-2.3	53.2	58.3	-5.1

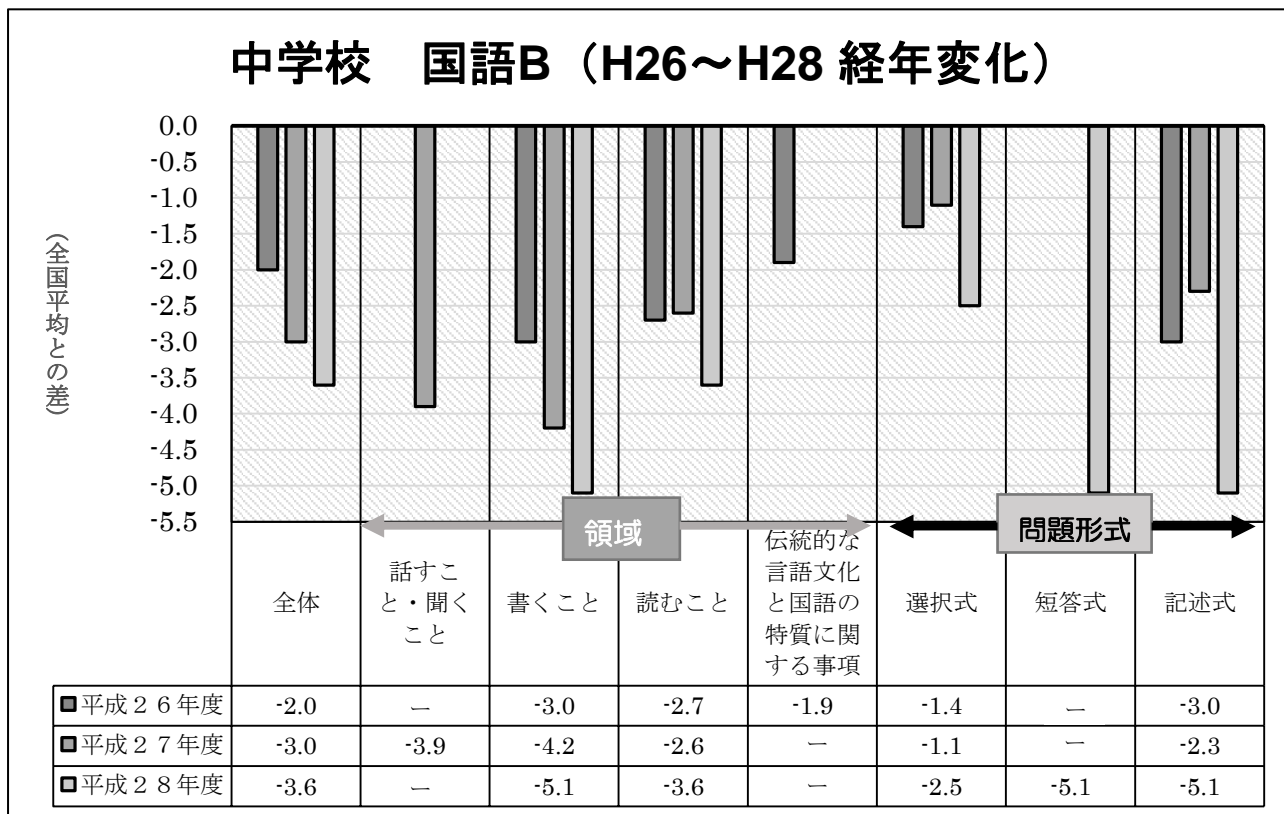


図 26 平成 26 年度から平成 28 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移（中学校国語 B）

中学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<生徒質問紙調査>

- 「国語の勉強は好き」と回答する生徒の割合（表 21）
- 「読書が好き」と回答する生徒の割合（表 21）
- 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること（表 22）
- 国語の授業で意見などを発表する時、うまく伝わるように話の組立を工夫すること（表 22）
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書くこと（表 22）

<学校質問紙調査>

- 「前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行った」と回答した学校の割合（表 24）
- 「補充的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合（表 24）
- 「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」と回答した学校の割合（表 24）

生徒質問紙

表 21 生徒の「国語の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
61	国語の勉強は好きですか	59.6	58.2	66.4	59.8	◎
62	国語の勉強は大切だと思いますか	89.2	86.9	89.4	89.1	○
63	国語の授業の内容はよく分かりますか	74.4	73.7	80.0	74.1	◎
64	読書は好きですか	69.8	63.8	68.3	69.9	△
65	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	81.5	83.0	84.3	84.6	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 22 生徒の「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
66	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	57.3	56.8	58.5	62.2	△
67	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	48.0	49.2	54.8	56.7	△
68	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	61.4	61.7	64.0	66.7	△

69	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	67.8	68.0	71.4	71.3	○
----	--	------	------	------	------	---

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 23 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
70	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	72.7	74.1	70.9	71.7	△
82	解答時間は十分でしたか（国語 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	93.2	92.1	91.5	93.3	△
83	解答時間は十分でしたか（国語 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	79.5	85.9	84.8	84.6	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 24 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
57	前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影机、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	0	20.0	20.0	20.2	△
67	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	50.0	70.0	70.0	81.0	▲
68	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	50.0	60.0	80.0	65.5	◎
69	前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	80.0	60.0	90.0	86.1	○
70	前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	100.0	90.0	100.0	95.2	○
71	前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	60.0	100.0	60.0	88.7	▲
72	前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	100.0	90.0	100.0	98.4	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校 数学

< A 問題 > (表 25) (図 27) 参照

- 領域別では、「数と式」について、H27 年度に比べて、全国平均との差を 1.4 ポイント縮めている。
- 「図形」「関数」「資料の活用」の 3 領域では年々全国平均との差が広がっている。特に「図形」と「資料の活用」では、差が大きく広がっている。
- 問題形式別では、「選択式」について、年々全国平均との差が広がっている。

表 25 中学校数学 A 分類・区分別集計結果

中学校数学A		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	65.6	67.4	-1.8	61.6	64.4	-2.8	59.3	62.2	-2.9
学習指導要領 の領域等	数と式	76.2	77.4	-1.2	65.2	67.7	-2.5	64.8	65.9	-1.1
	図形	64.1	66.4	-2.3	60.4	63.4	-3.0	62.9	67.1	-4.2
	関数	55.7	58.0	-2.3	59.3	61.7	-2.4	49.2	52.0	-2.8
	資料の活用	57.9	59.1	-1.2	59.4	63.0	-3.6	52.2	56.5	-4.3
問題形式	選択式	62.6	64.4	-1.8	62.4	64.6	-2.2	55.1	57.8	-2.7
	短答式	68.5	70.4	-1.9	60.8	64.2	-3.4	61.6	64.6	-3.0
	記述式									

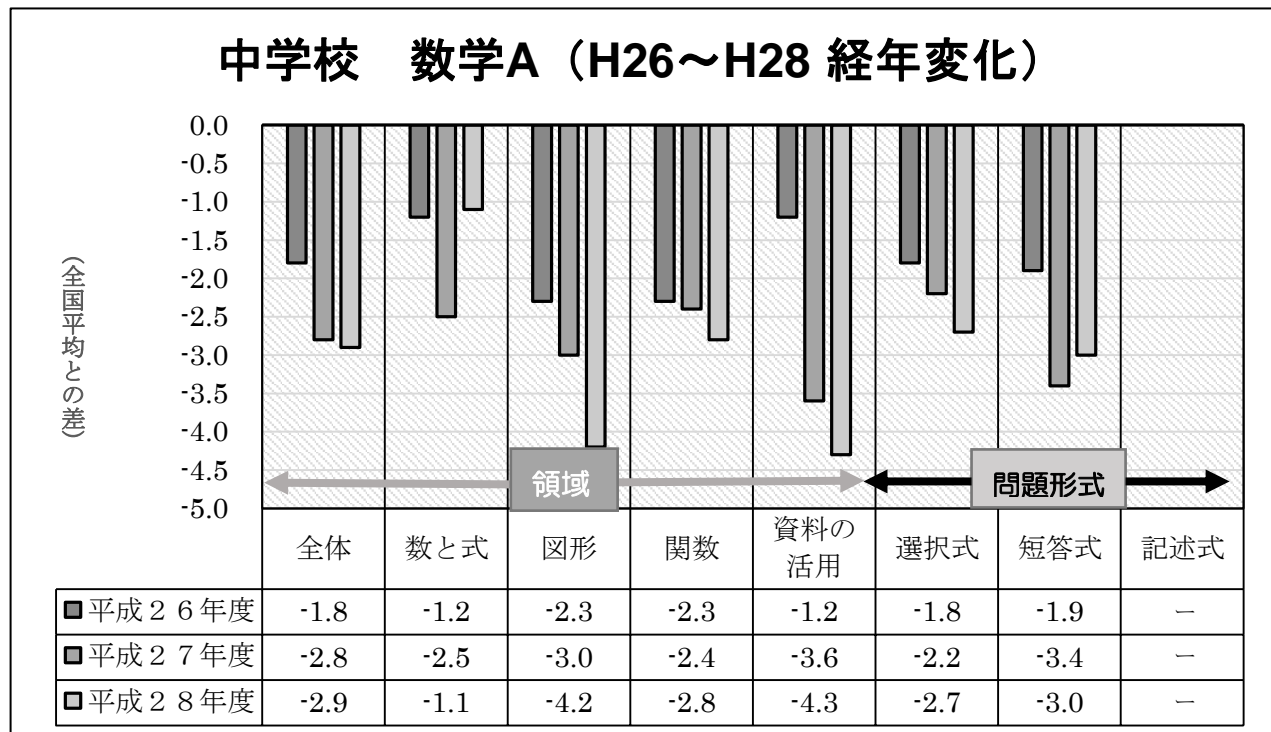


図 27 平成 26 年度から平成 28 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移 (中学校数学 A)

＜B問題＞（表 26）（図 28）参照

- 領域別では、「関数」について、H27年度に比べ2.4ポイント伸び、全国平均を0.1ポイント上回った。
- 「図形」「資料の活用」は年々全国平均との差が広がっている。特に「資料の活用」についてはH27年度に比べ、3.2ポイントとさらに大きくなった。
- 問題形式別では、「選択式」について全国平均との差が0.5ポイント差にまで縮まった。
- 「短答式」で、年々全国平均との差が広がっている。
- 「記述式」は、H27年度に比べて全国平均との差が1.7ポイント縮まった。

表 26 中学校数学B 分類・区分別集計結果

中学校数学B		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	57.7	59.8	-2.1	38.4	41.6	-3.2	41.1	44.1	-3.0
学習指導要領 の領域等	数と式	56.9	56.9	0.0	58.7	63.2	-4.5	47.1	51.5	-4.4
	図形	56.3	58.6	-2.3	35.5	39.0	-3.5	29.5	33.3	-3.8
	関数	61.0	64.4	-3.4	28.4	30.7	-2.3	41.5	41.4	0.1
	資料の活用	54.0	55.9	-1.9	28.4	31.2	-2.8	33.3	39.3	-6.0
問題形式	選択式	81.5	83.2	-1.7	46.3	47.9	-1.6	40.8	41.3	-0.5
	短答式	61.3	63.3	-2.0	43.6	47.4	-3.8	53.2	57.8	-4.6
	記述式	42.1	44.8	-2.7	30.8	34.8	-4.0	30.8	33.1	-2.3

中学校 数学B（H26～H28 経年変化）

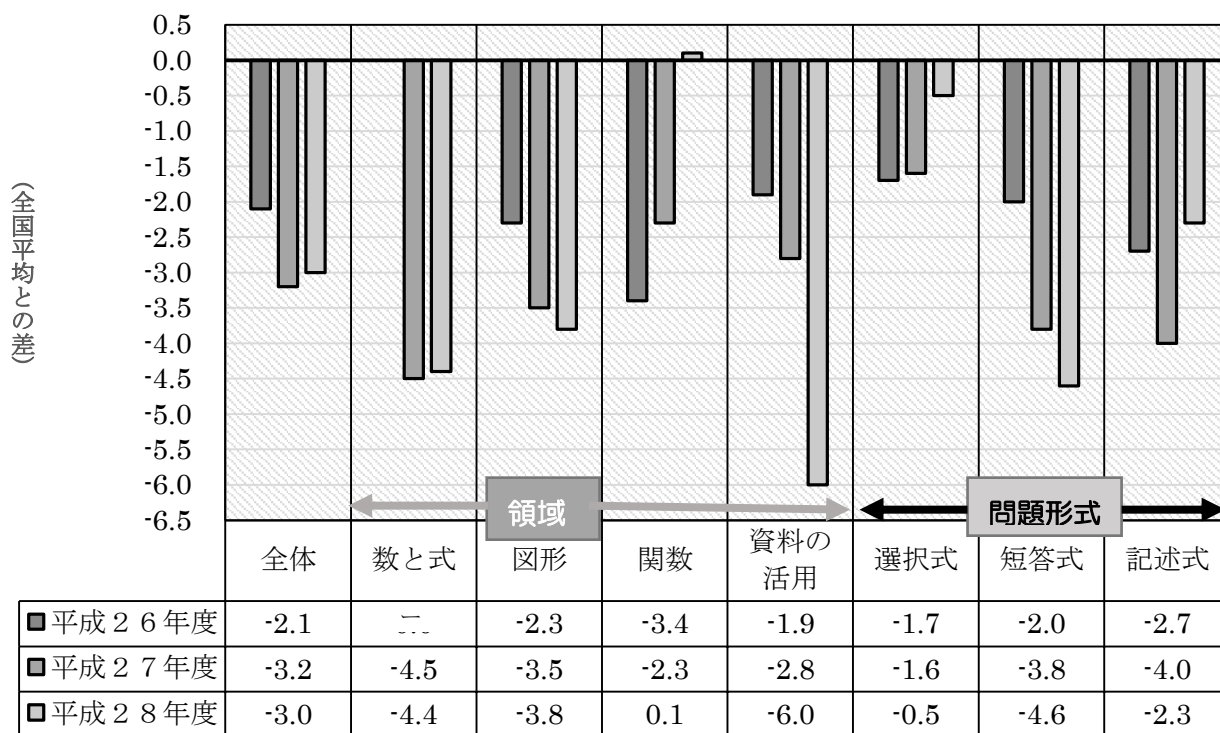


図 28 平成 26 年度から平成 28 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移（中学校数学 B）

中学校数学に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<生徒質問紙調査>

- 「数学の勉強は好き」と回答する生徒の割合（表 27）
- 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること（表 29）
- 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えること（表 29）

<学校質問紙調査>

- 「前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行った」と回答した学校の割合（表 30）
- 「補充的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合（表 30）
- 「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合（表 30）

生徒質問紙

表 27 生徒の「数学の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
71	数学の勉強は好きですか	54.6	56.4	54.5	56.0	△
72	数学の勉強は大切だと思いますか	78.6	82.5	79.9	80.5	△
73	数学の授業の内容はよく分かりますか	72.4	73.8	71.7	69.4	○
74	数学ができるようになりたいと思いますか	92.3	91.4	90.2	91.3	△
77	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	69.5	73.9	73.1	71.5	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 28 生徒の「数学の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
75	数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	73.3	70.4	71.4	72.1	△
76	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	43.3	40.0	42.0	41.9	○
78	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	69.2	68.7	69.6	69.0	○
79	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	73.2	70.6	70.4	69.8	○

80	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	84.6	83.0	81.9	81.1	○
----	------------------------------------	------	------	------	------	---

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 29 生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
81	言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	59.8	49.2	51.9	50.0	○
84	解答時間は十分でしたか（数学A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	91.0	89.9	90.1	89.2	○
85	解答時間は十分でしたか（数学B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	76.9	76.8	69.2	62.9	◎

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 30 「数学の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H28 質問 番号	質 問	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H28 全国 (公立)	H28 全国 平均 との差
58	前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	0	10.0	10.0	31.6	▲
73	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	70.0	70.0	80.0	90.6	▲
74	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	70.0	70.0	60.0	69.1	▲
75	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	60.0	50.0	70.0	69.2	○
76	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	80.0	90.0	80.0	96.7	▲
64	前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	10.0	10.0	10.0	35.4	▲
65	前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	10.0	10.0	10.0	29.2	▲
66	前年度に、ティームティーチングによる指導を行いましたか	10.0	30.0	50.0	46.9	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎